

Vol.30 (2010年4月号)

- 2● コンゴ民主共和国取材報告会
- 3● 地球のステージ2000回記念公演を終えて
- 4・5● ユニセフ出前学習会報告
- 6・7● 第8回ユニセフのつどい
- 8~11● 活動File 2009年10月~2010年3月
- 12● お知らせ

世界の子どもたちのために

Wish

ユニセフ兵庫ニュース



実行委員 村井奏子

「レアメタルと紛争」

田中龍士さん 毎日新聞大阪本社社会部記者

1月30日(土)、コープこうべ生活文化センターで、田中龍士さんを講師に「コンゴ民主共和国報告会～レアメタルと紛争」を開催し、39人が参加しました。国際児童年の1979年に始まった毎日新聞社の「世界子ども救援キャンペーン」は、戦争や貧困に苦しむ子どもたちを救うために企画された事業です。記者とカメラマンを世界各地に派遣し、現地の子どもの生活や人々の生活取材し報道するというもの。今回は毎日新聞社会部記者の田中龍士さんが現地で42日間にわたり取材した現状を映像を交えてお話いただきました。報告会の内容を参加者の感想からご紹介します。

コンゴ民主共和国～レアメタルと紛争～報告を聞いて

この報告を聞いて自分の無知さ、無関心さを恥じた。自分の今の生活に安住して、身の回りのことばかり考えている自分が情けなくなった。機会がある度にこういう話を聞かねばならないと肝に銘じた。

人間の強欲のなせる業か、レアメタルが紛争の種になっている。こんなものが採れるばかりに結果として避難民へと追いやられる不条理さ、採れなければ今まで通り安堵に満ちた生活が送れたはずだ。一方、レアメタルを使った商品で私達は便利に暮らし、満足感・幸福感を味わっている。なんと無理不健全な話である。

部族同士がいがみ合い、その武装勢力の蛮行、非道さ、とても人間のすることとは理解できない。村民は逃げ惑い、国内避難民となり、極貧のテント生活に追いやられる。レイプ被害の子ども達の悲しさ、心身ともにズタズタにされ、

本来夢のある子ども達にこの仕打ち、これからの人生はどうなるのだろう。拉致され「子ども兵」にされ、解放されて戻ってきても心の深い傷跡は消えない。本当にやるせない。この国に居る限り幸せは無いという。生まれた処を故郷とも思えなくなっている。何と寂しいことか。5人に1人が5歳の誕生日を迎えられない現実、「貧困」の一言で片付けられない。にもかかわらず、写真の子ども達のくっつくような笑顔はそんな影を微塵も見せない、しかも夢を失ってはいない。勉強したい、仏語を身に付けたい、学校が楽しいなどすごい子ども達である。逆境に負けない逞しさに安堵する。そこで日本の子どもは？とつい比較してしまうが、比較する土壌が違うのだから余り単純に日本の子どもは・・・と決め付けるのもどうかと思う。世界にはこのような生活を強いられる子どもがいることを知らせていくことが大切だと思う。田中記者が世界で起きていることに関心を持ち続けて欲しいと言われたように、



放水しながら土砂をかき分け、コルタンの鉱石を洗い出す労働者たち。流水が山肌を削り残した跡は人間の欲望を象徴するかのようだった
コンゴ民主共和国南キブ州ヌンビ(森田剛史記者 2009/7/6撮影 毎日新聞社提供)

平和は私達市民がその思いを持つことから始まる。「知ること」により私達の「生き方」も考えさせられる。これからはこういう機会があれば是非参加し、関心を持ち続けたい。
(県支部ボランティア 酒井 登)

感想

子どもの無邪気な明るい笑顔と、冷たい眼で硬い表情の少年兵の対比が心に突き刺さりました。どんなときにも一番被害を受けるのは子どもと女性だと感じました。遠いところの話で終わらせたくない。私たちに何ができるのでしょうか？ 今回のお話を自分の周りの人たちに伝えたいと思った。大学でアフリカについて学んでいますが、学校の授業だけでは学べないことを教えてもらった。アフリカの地理さえ不確かですが、田中記者の「常に関心を持ち続けること」という言葉を心に留めておきます。



2部:ミュージカル調に繰る東ティモールの素顔「パイロピテ診療所」



1部:ダン医師のライブトーク



2部:東ティモールの素顔



「地球のステージ」は紛争地や被災地で緊急医療や心のケアにとりくむ精神科医の桑山紀彦さんが、現地での活動や出会った人々を歌と映像と語りで伝えるというもの。生活文化センターでの開催は2009年8月で5回目を迎えたが、1996年から始まった地球のステージの全国での公演は2000回を超える。そんな節目となる「2000回記念公演」が神戸で開催されることになった。兵庫県支部のメンバーを中心に17人が集まり、3月から実行委員会がスタートした。既に決まっていた「開催日時、内容はいつもと違いミュージカル調のステージ、収益金を東ティモール事業に全額寄付する」ということ以外はみんなで話し合いながら進めていった。最初にポスター作成のためにキャッチフレーズを話し合う場があった。いわゆる目的の共有化。桑山さんのような世界をまわって支援したりはできないけれど、自分にできる参加、支援の仕方でありたい、そう思って集まったメンバーから出てきたフレーズは「地球のステージに参加することが支援につながる」ということだった。実行委員全員の役割である広報も、そんな思いを胸に、友人・知人に声をかけ、様々なイベントに出かけ、チケット販売をさせてもらった。おかげさまで当日は東北や九州からの参加も含めて、約400人の参加があった。

ステージは2部構成で行われた。第1部は、東ティモールのパイロピテ診療所からアメリカ人のダン医師と東ティモール人のアイダ医師にもお越しいただき、独立紛争後の現地の状況やこの診療所で働くことになった経緯などを語られた。第2部の桑山さんのステージはパイロピテ診療所での活動や出会い、抱えている葛藤などを、映像と芝居と歌で表現し、臨場感あふれるものであった。参加された方の表情、桑山さんの達成感のある表情、そして、最終、企業・団体のご協力もあり40万円の収益金を届けることができたことを本当に嬉しく思う。「参加することが支援につながる」、そんな場をまたみんなで作れたらと思う。

黒板や勉強机などが残る学校の教室で、身を寄せ合って仮住まいの生活を送る国内避難民ら
コンゴ民主共和国北キブ州ブコンボ (森田剛史記者 2009/7/11撮影 毎日新聞社提供)



出前学習会を各地で開催しています

兵庫県支部では、ユニセフやユニセフの支援が必要な世界の子どもたちについての出前学習会を発足当初より実施しています。小・中学校や高等学校、また、公的な機関や民間団体・企業・コープ委員会など、依頼される団体も多岐にわたります。年間約40件の依頼に対し、学習チームを中心にユニーズや時には他のメンバーも力を合わせて対応しています。

対象となる年齢や目的・地域などが異なる中、それぞれのニーズにどのように応えていくか、日々の研鑽と工夫が求められる学習会。今回は、熱い思いで出前学習会にかかわるボランティア講師の活動を追ってみました。



子どもたちと出会う学習会

尼崎市立小園小学校 10月27日

小園小学校での学習会は今年で3年目。今回は『世界の子どもたちは今』をテーマに、グループで世界のことを調べている6年生(143人)に世界の子どもたちが抱えている問題やユニセフの話をしてほしいとのこと。

視聴覚室にぎっしり並んだ子どもたちに学習チームの石本愷子さんは次々と問いかけます。「ご飯食べてきた?靴はいてる?」「ユニセフ知ってる?開発途上国は?」。子どもたちは答えながら、当たり前と思っていることが出来ない子どもたちの存在やユニセフの働きに気づいていく様子。続いて映像を見ながら世界の子どもたちの過酷な現状、石本さんが訪ねたベトナムでの体験、ユニセフの活動、子どもの権利条約などを紹介。そしてもう一度、感想を聞きながら、今見たことを振り返ります。

小休憩の後、前に並んだ男子5人に合わせて全員で『世界手洗いダンス』を踊り、教室は笑い声でいっぱい。最後は両親を殺され、拉致され兵士になったシエラレオネの13歳の元少年兵のDVDを見ました。つらい経験を乗り越え、未来への夢を話す少年の姿が訴えたものは大きかったです。石本さんは「知ること、関心を持つこと、伝えること、何が出来るか考えることを大切にしてください」と話し、大きな拍手の中、学習会を終えました。後日届いた感想文集からは、学習会の内容が確実に伝わっていることがうかがえました。「卒業までにもう一度来てください」の文字に、皆の顔が浮かびますと石本さん。学習会を続けていく大きな励みになったようです。

学習会からつながる ハンド・イン・ハンド

安室公民館(姫路市) 11月8日

フィリピン台風・スマトラ地震など、世界で災害があるたびに自主的に募金活動を続けてきた日本ボーイスカウト兵庫連盟姫路第16団。20年以上も前から続けている募金

活動は、現在のハンド・イン・ハンド活動にもつながっている。今回、ユニセフの活動を知ることで、募金活動が団員にとってより身近なものになるようにと学習会を開催。

団員は小学1年生から高校2年生まで約32人。「世界の地球の子どもたち」のビデオを観た後、学習チームの井口正子さんから「あなたたちの夢は何ですか?」と聞かれても団員はピンとこない様子。「じゃあ、大切な人は誰?」と聞かれると「家族」と答える。「家族には値段がつけられないよね。あなたたちもたった一人の大事な存在なんだよ」と言われると、不思議そうな顔をしながらうなずく。「5歳まで生きられない子どもが世界に820万人もいる」と聞くと、「うそみたい」、「3秒に1人の子どもが亡くなっている」と言われると「日本ではありえへん」と即座に反応。「ほほえみききん」の言葉を使ってユニセフの活動を伝え、一生懸命メモをとる団員も。



経口補水塩体験では、開発途上国には、安全な飲み水がないこと、たび重なる下痢で深刻な栄養不良に陥っている子ども達がたくさんいるということを知り、「今の生活は当たり前のことだと思っていたけど、自分たちは幸せなんだと改めて感じた」と答えた団員もいた。ユニセフすごろくでは、さいころを転がすたびに項目を大きな声で読み上げ、支援を受けている子どもの体験もした。「団員には地球市民としての自覚を持ってほしいと伝えています。漠然と募金活動をするのではなく、ユニセフを知ること、自分で考えて行動するという、意味のある活動につながればと思います」と団長の宮野史昭さん。学習会後2回の募金活動を実施。12月13日のボーイスカウト団バザーにおいて団員から募金贈呈をいただいた。

学習チーム・ユニーズ等...総力結集 「お水は大事」学習会

I KEAポートアイランド店 12月5日



12月5日(土曜日)、世界の子どもたちのために、「ソフトイキャンペン・1ユーロは宝物、かけがいのない子どもたちの笑顔のために」を展開しているI KEAジャパンの依頼で、学習会が開かれました。昨年に引き続き2年目となるI KEAポートアイランド店での今年のテーマは昨年と同じ「お水は大事」。

I KEAに訪れたファミリーの子どもたちを対象に、学習チームの杉山三千さんをはじめ5人が、お水が毎日の生活になくてはならない大切な役割を果たしていることをコント形式で伝えたあと、「ユニセフ世界手洗いの日」にちなんで制作されたCDに合わせて手洗いダンスを披露しました。

導入や結びの部分では、ユニセフが果たす役割や困難な状況にある世界の子どもたちの話についてもきっちり盛り込んだこの日の台本は、杉山さんのオリジナル。「対象はこれまで余り例がない低年齢、だからできるだけわかりやすく心がけました。

他支部との交流の場で学んだメニューも参考になりました」と杉山さん。ユニーズやインターシップのメンバーとリハーサルを直前まで重ねて準備をしました。短い時間でしたが、楽しいダンスの記憶とともに、お水の大切さやユニセフの役割についても、きっと子どもたちの心に刻まれた事でしょう。

この学習会は、12月5日・6日・12日・13日と合計4日間にわたり実施され、学習チームを中心に21人のメンバーが講師として活動しました。



2009年度学習会訪問一覧			
訪問日	訪問先	対象	人数
4月5日	神戸大学大学院G P合宿	院生	120
6月1日	西宮市社会福祉協議会「善意の日のつどい」	大人	200
6月4日	丹波市立久下小学校	小学6年生	49
6月28日	神戸市立住之江公民館	大人	22
7月10日	兵庫県立大学(UPPファシリテーター)	大学生	20
7月16日	神河町立長谷小学校	小学1年~6年生	28
9月11日	神戸市立住之江公民館	3歳児の母親	16
9月13日	(社)ガールスカウト兵庫県支部	学生~大人	30
10月1日	三田市立あかしあ台小学校	大人	20
10月6日	明石シニアカレッジ	大人	100
10月9日	明石市立林小学校	小学6年生	87
10月15日	キザニア甲子園	幼児~大人	100
10月16日	大阪経済大学	大学3年生	20
10月27日	尼崎市立小園小学校	小学6年生	146
11月8日	ボーイスカウト姫路第16団	小学1~高校3年生	30
11月15日	ブランジャパン兵庫ベアレント会	高校生~大人	12
11月15日	ガールスカウト兵庫第33団	小学生~大人	30
11月26日	福崎町立高岡小学校	小学5~6年生	28
12月4日	尼崎市立大島小学校	小学3~4年生	195
12月4日	尼崎市立大島小学校	小学5~6年生	243
12月5日	イケアポートアイランド	幼児~小学生	60
12月6日	イケアポートアイランド	幼児~小学生	30
12月12日	イケアポートアイランド	幼児~小学生	60
12月13日	イケアポートアイランド	幼児~小学生	50
2月12日	マリナパークコープ委員会	大人	21
2月23日	姫路市立八木小学校	小学6年生	26

ユニ・ボラ塾

「子どもの実情をもっと知っていこう」

学習チーム 戸崎 文子

第3回、4回のユニ・ボラ塾のテーマは「生きる力を見ずえて」です。どんな状況にあっても「子どもたちは一生懸命に生き抜こうとしている」ということを心に留め置こうという趣旨なのです。

9月19日の第3回目では、末吉洋文先生(帝塚山大学・准教授)が子どもの実情に関する本を50冊持ってきてくださり、参加者は各々が好きな一冊を選び、10分間読んだ後、ほんの紹介と自分の感想を伝えるというワークショップをしました。いくら集中したとしてもほんの全容を読み取ることはできません。でも自分がどうしてその本に惹かれたのか、少し触れたことで自分の中に生まれてきた思いは何かを外に語る時、もっと知らなければの自覚が深まっていったのではないのでしょうか。

10月24日の第4回目は、子どもの権利条約を批准した国の政府が5年毎に国連・子どもの権利委員会へ提出する条約の実施状況についての報告書を学ぼうというものでした。日本とタンザニアを比較してみると、途上国の抱える問題の重さと質の違いは歴然としています。しかし、条約は飾りではなく実施状況は各国の政府の姿勢如何であることを子どもたちへの責任としてかみしめねばならない。

第8回ユニセフのつどい

3月6日(土)、コープこうべ生活文化センターで、第8回「ユニセフのつどい～世界のともだちと心をつなごう～今、私たちにできること」を開催。約250人が参加し、交流を深めながら楽しいひとときを過ごしました。

まずはユニーズによるウオーターベルの演奏でオープニング。アフリカ・マダガスカル島で歌われている童謡「ダンシングバード」が会場に優しく響きました。

▼ 午前の部

▼ 活動紹介

▼ 松蔭高校 Blue Earth Project

10年前から環境と国際問題を啓発するBlue Earth Projectを展開しています。「踏み出す勇気 つながる心 変わりだす地球」をテーマに、衛生的な水を手に入れることが困難な途上国を支援する募金活動「TAPプロジェクト」に賛同し、今年1月より活動を開始。TAPカードのデザインから始まり、地域での啓発イベントなど数々の取り組みを紹介しました。



▼ 神戸市立科学技術高校

「蝶のために絵を描く」～他者を思いやるためのデザイン

自分が蝶だったら世界はどのように見えるのだろうか？もし、植物だったら音がどのように聞こえるのだろうか？映像や音響を使ってビデオを作成。独創的な視点から他人の眼になって考え、他者を思いやるというメッセージを伝えました。



▼ 西宮市立苦楽園中学校

「募金活動」～アルミ缶から世界の子どもたちへ

生徒会活動としてアルミ缶を回収して得たお金をユニセフに募金していますが、全校生徒にその活動を理解してもらうため、「アルミ缶の旅」の劇を制作し、学習発表会で上演した様子をビデオにして報告しました。中学生らしい一生懸命さが伝わりました。



▼ 伊藤ハム株式会社

「タンザニア支援プロジェクト」～ザンジバルへの栄養支援～

食品企業として社会貢献の取り組みを発表しました2009年9月～10月、伊藤ハムの一部の商品を1パックにつき1円の募金になり、そのお金でタンザニアのザンジバル島の子どもたちに栄養補助ミルクや栄養補助食品を支援する活動を行いました。



「世界のともだちと心をつなごう」 今、私たちにできること

▼ 2009支部活動あれこれ

ユニーズのメンバーが寸劇で多岐にわたる支部の1年間の活動を紹介します。神戸まつりパレードに参加、ユニボラ塾、学習会、募金活動、ハンドインハンド、グッズ頒布などたくさんの活動を振り返りました。



▼ 募金贈呈式

伊藤ハム株式会社
神戸市職員労働組合
神戸市立鷹取中学校生徒会
神戸新聞厚生事業団
コープこうべ
コープこうべ労働組合
コープこうべ定時職員協議会



▼ 午後の部

創立136年を迎える神戸市立住吉小学校。歌の好きな5・6年生68人が参加する合唱部は、NHK全国学校音楽コンクールで、全国第3位の実績があります。



つどいでは、「あきらめないで自分を」「耳を澄ませば」「しあわせ運べるように」の3曲を披露。2曲目の「耳を澄ませば」は、地雷の被害にあった子どもたちをテーマにした楽曲で、「手を返せ、足を返せ…」の歌詞は心に迫るものがありました。美しいハーモニーの中に込められた強いメッセージは、参加者の心に響き、次に続く柴田知佐さんの講演がより一層身近なものに感じられました。

また、阪神淡路大震災から神戸の街の復興を願って歌い継がれてきた「しあわせ運べるように」には、人のつながりの大切さや温かさを感じ、「毎日を大切に生きてゆこう」「しあわせ運べるように」と繰り返されるメロディーに涙する参加者も見られました。

▼ 講演

「今の自分にできること」～ノーモア地雷～

柴田さんは5年生の時、地雷で片手・片足を失った長野オリンピックの聖火ランナーをテレビで観て、心を強く動かされました。その思いを「ノーモア地雷」という4コマ漫画で表現し、中学1年生の時に実際にカンボジアの地雷原にも赴きました。「初めて訪れたカンボジアで、危険と隣り合わせに生きる人々を目の当たりにし衝撃を受けた」と柴田さん。何か自分にできることはないだろうかと思ったそうです。その後、現状を知り・伝え・行動に移すことが大切であり、自分にできることを少しずつやっていこうと、いろいろな場所で地雷廃絶を訴え続けています。「一人の百歩より百人の一步、あきらめずに世界中の人たちが自分にできることを見つけて活動を続けていくことが大切。あきらめたいいけない。いつか地雷がなくなったカンボジアを見てみたい」と強い思いを語ってくれました。華奢な体の柴田さんのどこにそんなバイタリティーがあるのか、ただただ感心させられました。

柴田知佐さん



「ユニセフと地雷」

出津正明さん

本物の金属探知機や日本製地雷等の紹介も交えながらの充実したお話でした。ユニセフは地雷について何をしているのか？ひとつは地雷回避教育～学校でレプリカを見せて触ってはいけないと知らせる事で、子どもから家族や地域にその知識が広がり大きな効果を上げています。もうひとつは被害者支援～被害者のリハビリや職業支援などです。また、日本は東アジアで唯一地雷被害が無く他国への地雷使用も無い国であるという事、隣国で何の罪もないのに被害に遭う人たちがたくさんいる事～地雷使用の罪深さと日本の法律の貴重さについて問題提起いただいたように思います。ユニセフの活動が効果を上げているカンボジア等の例も紹介いただきました。



▼ TOMOYO

続いてフォークソンググループ<TOMOYO>の演奏は心明るくなりました。

中でも『I believe the future』の歌詞は、結びの竹本会長の言葉でも引用いただき、改めて強く心に残ります。将来を信じましょう、と。子どもの笑顔が輝く未来を。



▼ ユニセフのつどい参加者の感想

最も心に残ったコト

たくさん心に残りましたが、住吉小学校のみなさんの歌声に涙がとまりませんでした。(48歳女性)
地雷についてもっと勉強していこうと思いました。「一人の百歩より百人の一步」(31歳男性)
わたしは柴田さんの行動力の強さが心に残りました。そのような人がもっと増えれば地雷も無くなっていくと思います。(12歳女子)

「たのしかった!」「やってみよう!!」と思ったコト

カンボジアに行く。(12歳男子)
わたしは住小の合唱部だから合唱で世界の人に地雷のことを伝えていきたいです。(12歳女子)
ちょうが花を見ると自分が見ているのとちがってすごいたのしかった。(11歳女子)

びっくりしたコト

柴田さんが13歳でカンボジアへ行って実際に地雷除去を見たのにびっくりした。(12歳女子)
地雷をかいしゅうするのに1100年もかかると聞いたコト。(12歳男子)

地域でこんなにたくさんの方がいるんな形で活動されているのだと知ったこと。(22歳女性)

なんでも自由に記入してください

この集いでたくさんの方々の情報を得ました。参考にして今年も頑張っていきたいです。(17歳女性)
兵庫県支部の皆様のパワーを感じました。あたたかい催しでした。(49歳女性)
今日は歌わせてくださってありがとうございました。すごく楽しかったです。(12歳男子)



ルー大柴さんを迎え
「手洗いダンス」で
スペーススー!!



「世界手洗いの日」が2008年から始まり、昨年は10月15日にキッザニア甲子園を会場に、イベントが開催されました。キッザニアに来ている子どもたちが舞台のお仕事体験で、楽しい音楽にあわせてのダンスと正しい手洗いを体験し、子どもたちは「手洗い大使」に任命されました。県支部ボランティア石本さんからの世界の子どもの衛生環境などの話の後、ゲストのルー大柴さんの登場で会場は大いに盛り上がりました。「どこが一番楽しかった?」の質問に「全部!」と答えてくれた子どもや観客席から目を丸くして見ている赤ちゃん。世界の子どもたちと、手洗いした手がつながったようです。

ふれあいの祭典
コウノトリ翔る
但馬まるごと感動市に参加

11月14日・15日(土・日)
兵庫県立但馬ドーム

兵庫県主催のふれあいの祭典に、ユニセフひめじオーリーブの会のメンバーが参加。パネルの展示やユニセフグッズの頒布、カタログを配布してご利用をお願いするなど、ユニセフの活動を紹介しました。パネルを熱心に見る親子連れ、「売り上げの半分が募金になるんですよ」と伝え、「じゃあ少しだけ協力します」とクリスマスカードを買ってくれた学生たちもあり、なごやかな中にも手ごたえのあるPR活動となりました。



ウクレレ
チャリティーコンサート

11月19日
西宮プレラホール

各地でウクレレ教室を主宰されている中けいこさんとその生徒さんたちのコンサートも今年で3回目。軽やかなハワイアン音色と、彩り鮮やかなコスチュームで会場が南国ムードに染まりました。最後には、共演のバッキー白方(jr)さんと観客も一体になって大合唱を楽しみ盛況のうちに幕となりました。当日の収益金の一部が兵庫県支部に募金として寄付された他、ユニセフグッズの頒布活動にもご理解を頂きました。



今年は鉄人も応援!

神戸ラブラン チャリティ・ウォーク ●2月14日(日)



14キロ健脚コースは、長田地域の新しい人気スポット・鉄人28号モニュメント前からスタートしました。425人の参加者は、鉄人が見守る中準備体操で身体を温めポートアイランドの市民広場をめざしました。「毎日のウォーキングで自信があります!」と余裕の神戸市北区の女性4人グループ。垂水からのファミリー参加は何と総勢12人、三世代の笑顔がはじけるウォークでした。中間チェックポイントのハーバーランドでは、心地よい潮風を感じながら持参の弁当でエネルギーの補給をしました。中には、レストランで優雅な時間を過ごすグループもありました。

賀川豊彦献身100年記念事業
神戸プロジェクト 記念式典

12/22(火)
ポートピアホール

神戸での救貧活動をはじめて丸100年になるのを記念して開かれた式典に約1600人が参加。賀川豊彦と縁の深い日野原重明氏(聖路加国際病院名誉院長 理事長)の講演「いま私たちにできること」に続き、野尻武敏氏(神戸大学名誉教授・コープこうべ協同学苑 学苑長)、今井静雄氏(神戸プロジェクト実行委員長)との鼎談では、「賀川豊彦の何を継承し発展させるか」を問題提起された。

子どもの権利条約の先駆者だけではなく、賀川豊彦の子どもへの未来への祈りにも似た願い、多様な取り組みを改めて知ることができました。兵庫県支部からも多数のボランティアが参加し、ユニセフグッズの頒布を行いました。

ご協力ありがとうございました!

コープ活動サポートセンターで
ユニセフグッズの頒布活動

西宮・塚口・明石・宝塚・住吉・神戸北

この春、コープこうべ各地区の活動サポートセンターでは、多くの組合員に参画を呼びかけてサークルフェスティバル(サポートセンターによっては名称が異なります)が開かれました。組合員の皆さんによるステージ発表や食生活の提案活動など多彩な催しに混じって県支部もユニセフグッズを頒布する機会を頂きました。各会場2人~3人のボランティアで対応、参加者に協力を呼びかけました。



「毎年、この機会にカードを購入するのを楽しみにしているのよ」「何かのかたちで力になりたいから...」と、うれしい言葉とともに温かいご協力を頂きました。コープこうべからは、この他に各店舗でのユニセフ募金箱の設置、協同購入の組合員への募金の呼びかけなど、多くの応援を受けています。

ユニセフ・カレンダー募金
活動を行いました

日本ユニセフ協会兵庫県支部では、数年前から「ユニセフ・カレンダー募金」を行っています。この活動は、毎年2月に文具店伊東屋様から日本ユニセフ協会に寄贈された新品のカレンダーを販売し、収益金を全額ユニセフ募金にするというもの。絵が美しいものや見ていて楽しいカレンダーは人気があり、毎年楽しみにされている方もあります。今年もコープこうべの店舗や生活文化センターなどでカレンダーを販売。合計202,730円の募金をいただきました。

第31回「ユニセフハンド・イン・ハンド」を実施

世界の子どもたちへの協力をお願いする街頭募金活動を、12月20日(日)、23日(水・祝)に行い、2日間で330,271円の募金をいただきました。ボランティアとして初めて呼びかけた大学生、高校生をはじめ毎年必ず参加して下さる方など、少しずつ活動の輪が広がっています。募金を手に「寒い中だけどがんばってね」と声をかけて下さる方、一旦通り過ぎて戻って来て下さる方、それぞれの思いも伝わってきました。ご協力いただいたみなさんへ心から感謝です。

テーマ
「一度も誕生日を迎えられない
小さいのち 年間約600万人」

Hand in Hand

ことのほか厳しい寒さに見舞われた当日でしたが、買い物に訪れた家族が足を止めて募金に協力を頂きました。4~5人の高校生が財布の中を探り合って募金に協力してくれる一幕も!



宝塚会場



伊丹会場



住吉会場



西宮会場



元町会場



三宮会場



名谷会場



垂水会場



姫路会場



加古川会場

ボランティア連絡会に いらっしやい!

日本ユニセフ協会兵庫支部で活動するボランティアさんはおよそ100人。いろいろな分野でユニセフに関わるボランティア活動を続けていますが、月に1度情報交換をし、交流を深めるのがこの連絡会。現在の世界の子どもの状況を知り、今、何ができるのかを考える良い機会にもなります。

11月28日に開かれた連絡会では、2008年ユニセフスタディツアーに参加し、ネパールを訪れた羽島新菜さんからお話を聞きました。「ユニ



セフ募金を通して私たちとネパールの人たちは確かに繋がっていると感じた」という羽島さんの言葉は、ボランティア活動の励みにもなりました。ボランティアには誰でも、いつでも参加できます。

ユニセフの活動に関心のある方、一度ボランティア連絡会に参加しませんか?

『ユニセフ・カードと ギフト春・夏号2010』



今から61年前の1949年、記念すべきユニセフカード第1号が発行されました。ユニセフ・カードとギフトは、定価の約50%が150以上の国と地域におけるユニセフの活動資金となり、多くの子どもの未来を支える大きな柱になっています。カード・グッズの購入をご希望の方は、お問い合わせください。
☎078・435・1605

紙芝居などの学習教材を 利用しませんか

県支部学習チーム作成の学習教材用紙芝居。日本ユニセフ協会の資料を元に子ども達が主人公のストーリーをオリジナルで考え絵をつけて作成。テーマ別に「井戸ができた」「工場から学校へ」「A FOOTBALL IN THE BUSH」があります。児童労働や地雷の問題など、日本にくらす



子ども達にはピンと来にくい問題がわかりやすく提示され、学習会などで活躍しています。希望者に貸出しも行っていますので、くわしくは事務局にお問い合わせください。番外編として竹本会長の広島被爆体験のお話を元に作成した「最後のトマト」があります。

第15回理事会・第8回評議員会 を開催

3月8日(月)
コープこうべ生活文化センター

兵庫県支部の理事会・評議員会において、2009年度の事業報告および決算、2010年度事業計画と予算などについて、ご出席のみなさまにご承認いただきました。また、(財)日本ユニセフ協会が進めている新公益財団法人化に伴う兵庫県支部の現状について説明を行いました。

審議終了後、ボランティアスタッフによる1年間の活動紹介を演劇風に仕立て上げご紹介しました。



どうぞよろしく!

インターンシップ 大阪経済大学 吉川裕人さん、田中詩織さん

昨年もインターンシップのフレッシュマンが兵庫県支部で活動しました。以前からユニセフには大きな関心を持っていたという二人、インターンシップの期間が終わっても活動を続けていきたいと目を輝かせていました。

Q 兵庫県支部の印象は?

吉川 とにかく皆さんの活動に目を見張っています。すごい一言です。

田中 事務所のアットホームな雰囲気がとても良かった。みんなフレンドリーで優しい。仲間に入れてもらってとてもうれしいです。

Q これまでの活動で感じたことは?

吉川 地球のステージが初めての活動でした。当日は来場者の案内などの担当をしました。本番では、実際に戦闘地域で活動してこられた桑山さんの生の声を聞いて感動しました。

田中 イケアの学習会では子どもたちの前に立って少し緊張しましたが、とても楽しかったです。いろいろな行事に参加していますが、得るものがとても多いです。

民間企業や団体によるユニセフ支援

【ユニセフ支援のパートナー イケアジャパン株式会社】

ソフトトイキャンペーン

「1ユーロは宝物 かけがえのない子どもたちのために」

スウェーデン発ホームファニッシング・カンパニー イケアの日本法人イケアジャパン株式会社では2003年からソフトトイキャンペーン「1ユーロは宝物 かけがえのない子どもたちのために」を展開しています。このキャンペーンは、ソフトトイ1個の売り上げに対し、1ユーロをユニセフなどの教育プログラムに寄付をするという取り組みで、昨年の11月1日から始まった今回のキャンペーンは今年1月の初めまで続きました。



昨年までに、合計約1670万ユーロが支援を必要としている子どもたちのために寄付され、30カ国以上で実施されているプロジェクトに活用されました。また、2008年に日本で調達された2000万円以上の寄付金は、ベトナム・シエラレオネで就学前教育の質の改善、少数民族の子どもの教育環境整備、教員の研修などに使われています。

昨年の12月には、ユニセフ協会兵庫支部と連携し、ボランティアによるユニセフ学習会、ユニセフグッズの頒布活動を4日間にわたって実施し、啓発・啓蒙活動にも力を注いでいます。

(5頁に関連記事)



募金や会員など、 あなたができる方法で ご協力ください

写真は1月30日ハイチ地震緊急街頭募金活動の様子(JR住吉駅)



緊急募金のお願い

ハイチ地震緊急・復興支援募金

郵便振替: 00190-5-31000
通信欄に「ハイチ K1-280兵庫」と記入

フィリピン台風緊急募金

郵便振替: 00190-5-31000
通信欄に「フィリピン K1-280兵庫」と記入

サモア地震津波緊急募金

郵便振替: 00190-5-31000
通信欄に「サモア K1-280兵庫」と記入

スマトラ沖地震緊急募金

郵便振替: 00190-5-31000
通信欄に「スマトラ K1-280兵庫」と記入

パキスタン人道支援緊急募金

郵便振替: 00190-5-31000
通信欄に「パキスタンK1-280兵庫」と記入

アフガニスタン緊急・復興支援募金

郵便振替: 00190-5-31000
通信欄に「アフガニスタンK1-280兵庫」と記入

ガザ人道支援緊急募金

郵便振替: 00190-5-31000
通信欄に「ガザK1-280兵庫」と記入

アフリカ緊急募金

郵便振替: 00190-5-31000
通信欄に「アフリカ K1-280兵庫」と記入

自然災害緊急募金

郵便振替: 00190-5-31000
通信欄に「自然災害 K1-280兵庫」と記入

人道危機緊急募金

郵便振替: 00190-5-31000
通信欄に「人道危機 K1-280兵庫」と記入

【共通】

送金手数料は免除されます。口座名義: 財団法人日本ユニセフ協会 募金はゆうちょ銀行指定の振込用紙をご利用の上、上記口座までお振込みください。ユニセフへの募金は寄付金控除の対象となります。

ユニセフ募金

~ご家庭で学校で職場で~

いただきました募金は、日本ユニセフ協会からユニセフ本部、そしてユニセフ現地事務所を通じて世界の子どものための支援活動に使われます。

郵便振替でお願いします
口座番号: 00190-5-31000
加入者名: (財)日本ユニセフ協会
通信欄に「K1-280兵庫」とご記入ください。

会員って

ユニセフ協力活動を行なう日本ユニセフ協会を、会費によって支援します。

一般会員...個人ならどなたでも
1口 5,000円
学生会員...18歳以上の学生
1口 2,000円

団体会員

...団体、法人、企業1口 100,000円
申込み方法についてはお問い合わせください。

ボランティア募集

世界の幼い子どもたちの命を守る活動や基礎教育を広める活動を、あなたも応援してみませんか? 兵庫県支部では、ユニセフの紹介・啓蒙活動や募金活動などを、交流を楽しみながら進めています。他にチームに分かれての活動もあります。興味のある方はぜひ事務局までお問い合わせください。

学習チーム ユニセフについての出前学習会の講師活動

カードチーム カードなどのユニセフ製品の頒布活動や管理

事務チーム 支部事務局をサポートする事務所内での活動

広報チーム 「Wish」の作成やその他広報ツールの作成

UNIES 学生など若者が中心の活動

学習会 イベント参加 カード頒布
事務局運営 広報

「神戸まつりパレード」に参加、行進します

日時：5月16日(日)

会場：三宮フラワーロード付近 兵庫県支部は午後2時10分頃にスタート(予定)

「アフリカ学習会」

日時：5月29日(土) 10:30～12:00

会場：コープこうべ生活文化センター会議室

講師：大津司郎さん(フリージャーナリスト)

内容などくわしくはお問い合わせください。

参加無料
[要予約]

「ボランティア入門講座」

日時：5月29日(土) 13:00～14:00

会場：コープこうべ生活文化センター西館2階会議室

参加無料
[要予約]

講演会「コーヒー危機とフェアトレード」

日時：6月19日(土) 13:30～15:30

会場：コープこうべ生活文化センター会議室

講師：辻村英之さん(京都大学大学院農学研究科准教授)

「フェアトレードってなに? 国際協力を考える中で、よく聞く言葉。商品がいったいどんなルートをたどったのか、そしてそこから世界が抱える様々な問題は何なのか。タンザニアにフィールドをもち、長年コーヒーの実践研究をされている辻村さんをお迎えしお聞きします。

共催：生活協同組合コープこうべ、日本ユニセフ協会兵庫県支部

参加無料
[要予約]

「ルワンダフルコンサート2010」

日時：7月10日(土) 15:00～17:00

会場：コープこうべ生活文化センター2階ホール

出演者：ジャン・ポール・サンブトゥ、ダンスチーム『イングリ』

コーディネーター(通訳)には、カンベンカ・マリールイズさん

参加費：大人 2,000円 高・大学生 1,000円 中学生以下無料

「ルワンダ出身のミュージシャン ジャン・ポール・サンブトゥとダンスチーム『イングリ』を迎え、ルワンダ音楽とダンスパフォーマンス「ルワンダフルコンサート」を開催します。音楽を通じての国際理解、協力だけではなく、「平和活動」として、いのちのこと・教育のことなど、参加いただいたみなさんといっしょに、心と体で感じるコンサートにしたいと思っています。あなたもぜひ、参加しませんか。

主催：ルワンダフルコンサート神戸実行委員会(日本ユニセフ協会兵庫県支部内)

参加無料
[要予約]

ユニセフ7支部交流会

日時：7月24日(土) 13:00～17:00(予定)

会場：大阪市立男女共同参画センター(大阪クレオ西)

内容などくわしくはお問い合わせください。

お申し込み・お問い合わせは兵庫県支部まで(平日の10:00～16:00)

☎ 078-435-1605 FAX 078-451-9830

あ・と・が・き

新長田からカメラを片手に、参加者の皆さんと一緒に14キロを歩きました。ずーっとしゃべりながら歩いていたので、疲れたのは足ではなく口の方でした～(ハハ)(丸)

小学校での学習会に同行。子どもたちの理解力に感心しました。「人から話を聞かって大切だと改めて思いました」と6年生の感想。「私が勉強になりました。募金呼びかけ頑張ります」と先生の感想。同感、同感です。そして何よりも学習チームの活動に敬服です。(伊)8回目のユニセフのつどいが終わり、また新しい1年の始まりです。春は出会いと別れの季節、そして未来への成長エネルギーを感じる季節です。(楠)誰かのためになることをしている使命感から、募金活動の子どもたちの声はとて張りがありました。私の心にも、そして遠くアフリカの子どもたちにも届く力強い声でした。(来)

世界の子どもたちのために

Wish Vol.30号
(2010年4月号)

ユニセフ兵庫ニュース

2010年(平成22年)4月発行

発行：日本ユニセフ協会兵庫県支部

住所：〒658-0081

神戸市東灘区田中町 5-3-18

コープこうべ生活文化センター 4F

電話：078-435-1605

FAX：078-451-9830

(お問い合わせは平日の10時～16時)

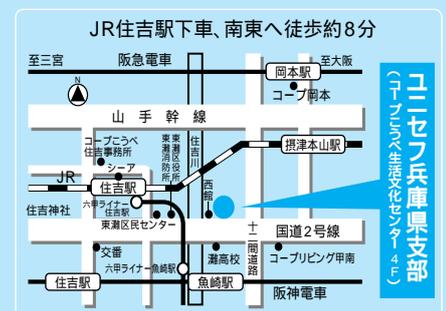
最新の情報はホームページで

<http://www.office-bit.com/unicef-hyogo>

日本ユニセフ協会兵庫県支部

検索

ユニセフ兵庫県支部への案内図



ユニセフ兵庫県支部
コープこうべ生活文化センター4F